

# 令和3年度学校自己評価システムシート（県立鶴ヶ島清風高等学校）

|        |               |
|--------|---------------|
| 目指す学校像 | 地域に貢献できる人材の育成 |
|--------|---------------|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 「自ら考える力」の育成<br>2 「健全な職業観・勤労観」の育成<br>3 地域との連携・協働による「地域参画力」の育成 |
|------|--|

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|                |          |     |
|----------------|----------|-----|
| 出席者            | 学校関係者    | 8名  |
|                | 生徒       | 3名  |
|                | 事務局(教職員) | 12名 |
| ※令和3年度は書面審議で実施 |          |     |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 |  |                                     |  |  |  |   |
|--------|--|-------------------------------------|--|--|--|---|
| 年度目標   |  |                                     | 年度評価(1月28日現在)  |  |  |   |
| 番号     | 現状と課題  | 評価項目                                | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況  |   |
| 1      | <b>■現状</b><br>・授業満足度及び授業理解度が向上し、教員個々の基礎学力の定着に向けた取組の成果が認められつつある。<br>・Chromebookやプロジェクター等のICT機器を活用した授業実践や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が広がりつつある。<br><b>■課題</b><br>・生徒個々の学力を最大限に伸ばすために教科指導力・授業力を全教職員の協力のもと組織的に向上させる必要がある。<br>・生徒の学習に対するモチベーションを高め、「自ら考え行動できる力」を身につけさせる必要がある。 | 基礎学力の定着をサポートする学力向上体制の確立             | ①生徒の非認知能力(自己効力感や勤勉性等)を高める取組や学力向上に資する取組を更に推進するために学力向上推進委員会を中心とする組織的な方策の企画・実施<br>②新学習指導要領の理念を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究・授業分析・授業評価を組織的・継続的に実施<br>③基礎学力の定着や学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルの構築・確立に向けた「高校生のための学びの基礎診断(基礎力診断テスト)」の効果的利活用<br>④BYOD環境下でのGoogle WorkspaceやClassiの活用も含めたより一層のICT機器を活用した授業改善の実施<br>⑤観点別学習状況の評価の導入を踏まえ、指導と評価の一体化を図る学習評価の在り方の研究・検討 | ①②学力向上・授業改善に資する取組が充実し、授業改善の機運が更に高まったか。<br>①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。<br>③「基礎力診断テスト」の具体的な利活用が推進されたか。<br>④授業においてICT機器をこれまで以上に効率的・効果的に活用する教員が増えたか。<br>⑤観点別学習状況の評価の導入に向けて学習評価の工夫・改善が図られたか。     | <b>■生徒の基礎学力の定着をサポートする学力向上体制は概ね確立</b><br>①②教員相互の授業観察週間の設定やICT機器を活用した公開授業の実施など学力向上推進委員会が中心となって取組を進めた。<br>①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は94.2%(一昨年度89.4%)であった。<br>③「基礎力診断テスト」の結果分析のための教員研修会を開催した。(12月)<br>④全授業のGoogle Classroomを開講するなど昨年度にも増してGoogle WorkspaceやClassiを授業や補講で利用する教員が明らかに増加した。<br>⑤各教科・科目の「評価規準」「学習評価計画」を作成し、令和4年度からの観点別学習状況の評価の導入準備が完了した。 | A |
| 2      | <b>■現状</b><br>・各年次と進路指導部の連携によるインターンシップ、進路ガイダンスや大学短大授業聴講等を効果的に実施している。<br>・集団生活におけるルール、マナーやモラルを遵守する指導を教職員が一致して実施している。<br><b>■課題</b><br>・新型コロナウイルス感染症による制約条件下におけるキャリア教育を工夫しながら充実させる必要がある。<br>・将来の職業生活に必要な基礎的能力や社会的に自立するための資質と能力を育成する必要がある。                              | 系統的・横断的なキャリア教育の充実                   | ①系統的な進路指導計画に基づく進路ガイダンス等を組織的な連携のもと展開<br>②面談や各種ガイダンス等において生徒及び保護者に的確な進路情報を提供<br>③「学校の新しい生活様式」を踏まえた外部講師を活用したキャリアガイダンスや進路講演会、大学短大授業聴講、見学会等を計画・実施<br>④早期段階での生徒一人一人の目標設定を促し、目標達成への努力を通じて探究心を涵養し、創造性を高め、自ら学び自ら考える力を育成するための指導の実践<br>⑤集団に対する指導と個に対する指導を効果的に組み合わせ、きめ細かい丁寧な指導を実践   | ①②③④「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。<br>②③「学校の新しい生活様式」を踏まえたが進路行事が実施できたか。<br>④3年次生徒の第1志望進路の実現が9割程度になったか。<br>④⑤生徒との面談や「総合的な探究の時間」等が効果的に実施され、「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 | <b>■現下の状況を鑑みた系統的・横断的なキャリア教育の一定程度の充実を実現</b><br>①②③④「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合は61.0%(昨年度59.8%)であった。<br>②③リモート形式での進路ガイダンスや基礎力診断テストの振り返り、対面式の分野別ガイダンスや希望制の会社見学会などを工夫しながら実施した。<br>④3年次生徒の第1希望進路の実現率(12月末現在)は91.7%(昨年度89.8%)であった。<br>④⑤「学校評価アンケート」の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合は94.1%(一昨年度91.3%)であった。  | B |
| 3      | <b>■現状</b><br>・鶴ヶ島市内唯一の高等学校として地域と連携した事業や活動を積極的に展開している。<br>・学校説明会や入試対策講座、授業公開等の生徒募集活動・学校広報活動を実施している。<br><b>■課題</b><br>・奉仕体験活動や部活動等での地域との交流を通して、地域の信頼を築き、自主的に社会貢献する精神を培う必要がある。<br>・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しつつ、引き続き「開かれた学校づくり」を推進する必要がある。                                  | 「学校の新しい生活様式」を踏まえた学校・家庭・地域との連携・協働の実現 | ①新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、清風祭(文化祭)をはじめとする学校公開や地域貢献活動等を工夫しながら実施<br>②「学校における働き方改革」を推進しながら、効果的・効率的・戦略的に学校広報・生徒募集活動を展開<br>③デジタルコンテンツとしての「学校紹介動画」等の活用も含めた学校Webサイトの更なる充実<br>④保護者対象のメール配信システムを利用した適時適切な情報提供で連携を強化  | ①「学校の新しい生活様式」を踏まえた学校公開や地域貢献活動が実施できたか。<br>①ステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく教育活動が展開できたか。<br>②学校広報・生徒募集業務の効率化と戦略的展開が進んだか。<br>②③④学校Webサイトの閲覧数が前年度を上回るとともに、「学校評価アンケート」の学校広報(学校Webサイト・メール配信)に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。    | <b>■「学校の新しい生活様式」を踏まえた学校・家庭・地域との連携・協働については更なる工夫・改善が必要</b><br>①新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事及び授業等は公開中止となり、地域貢献活動も限定的であった。<br>①近隣の教育機関等と連携した実習や鶴ヶ島市や地元企業との連携によるコンテストへの出場など新たな取組が進んだ。<br>②学校イメージビデオの制作と学校Webサイトへの動画の掲載などの取組に加え、学校説明会及び中学校訪問の実施方法や内容の見直しを行った。<br>②③④学校Webサイトの1日平均閲覧数は約1,100件(4月)から約1,800件(12月)に増加し、学校広報に関する調査項目の肯定回答割合は保護者81.8%(一昨年度79.5%)であった。        | B |

| 学校関係者評価  |          |
|--|----------|
| 実施日  | 令和4年2月4日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等  |          |
| <b>■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。</b><br>・基礎的な学習ができ、中学校での躓きを解消したいと考える生徒が貴校を希望している。今後も分かりやすい授業をお願いしたい。<br>・生徒の基礎学力定着に向けて「学力向上推進委員会」をはじめ、教職員による組織的・有機的なサポート体制が構築されつつある。今後は教育現場でのICTの一層の活用と、講義形式による一方的な育成にとどまらないインタラクティブな授業の推進に期待する。<br>・先生一人一人の生徒に対する熱心が伝わってくる。  |          |
| <b>■評価項目(年度達成目標)2に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。</b><br>・進路指導に関する調査項目の肯定割合は61.0%と目標指標を大きく下回っている。コロナ禍により生徒は進路について不安を抱えていると思われる。PDCAをしっかりと回し、改善に取り組んでいただきたい。<br>・第一希望進路の高い実現率は評価に値する。コロナ蔓延という制約下でリモートを駆使するなどの努力の成果と思われる。生徒に各人の個性に相応しいコミュニケーション能力の涵養を図るように指導をお願いしたい。<br>・新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまった会社見学会等の代替として紹介ビデオやパンフレットを活用して生徒に情報提供できるとよい。 |          |
| <b>■評価項目(年度達成目標)3に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。</b><br>・地域参画力を育成するにあたっては、奉仕活動など地域との交流は不可欠である。コロナ禍により行動制限がある中ではあるが、工夫しながら引き続き重点的に取り組んでいただきたい。<br>・「新しい生活様式」下での地域連携・協働には困難が伴うが、工夫の跡が窺える。地域貢献については強制にならず、自発的な参加となるよう指導して欲しい。<br>・家庭との連絡は紙媒体ではなくメール配信システムを活用するなど感染防止に努めており評価できる。コロナ禍で地域との連携は難しいと思うが、生徒のためにも創意工夫をして実施していただきたい。                  |          |